

# 2021年度 甲賀地域ぶどう栽培研究会暦(シャインマスカット)

令和3年2月末時点

月	旬	生育ステージ	管理作業	かん水	内容																		
3	上・中	休眠期	基肥施肥		・右図を参考に施肥。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">主枝延長</th> <th colspan="2">1本あたりの施肥量(g)</th> <th rowspan="2">参考 10aあたり基肥窒素量</th> </tr> <tr> <th>エコレット048</th> <th>硫酸マグネシウム</th> </tr> <tr> <td>4m</td> <td>600g</td> <td>400g</td> <td>2.4kg</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>1,200g</td> <td>800g</td> <td>4.8kg</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>1,500g</td> <td>1,000g</td> <td>6kg</td> </tr> </table>	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり基肥窒素量	エコレット048	硫酸マグネシウム	4m	600g	400g	2.4kg	8m	1,200g	800g	4.8kg	10m	1,500g	1,000g	6kg
		主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり基肥窒素量																		
エコレット048	硫酸マグネシウム																						
4m	600g	400g	2.4kg																				
8m	1,200g	800g	4.8kg																				
10m	1,500g	1,000g	6kg																				
樹液流動開始	かん水はじめ	・水分不足は発芽遅延や発芽不揃いを招く ・土が乾燥しないように保つ ・晴天日の午前中に灌水する	・萌芽の揃いを良くするために樹液流動開始前にかん水を開始する。																				
4	上・中	主枝のぶら下げ	・定植3年目以降は、主枝の先端を下げることで均等な発芽が期待できる。																				
		《カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病害虫》	<b>石灰硫黄合剤(7倍、萌芽前)※展着剤加用</b> ※粗皮削りを行ってから散布すると効果が高い。ポルドー液との混用はしない。																				
		ビニール被覆開始	・萌芽前に被覆を行う。																				
5	上	萌芽～展葉	<b>【展葉5～6枚】</b> 芽かき	・不定芽、副芽をかきとる。新梢間隔を確保するため、1芽座から2本の新梢を出す場合もある。																			
		樹齢5年目までの肥大処理	<b>【展葉6枚】</b> 樹齢5年目までの肥大処理	・ <b>フルメット2ppm(花房散布または浸漬)</b>																			
	中	新梢伸長・展葉	<b>【展葉7枚前後～】</b> ねん枝・誘引 摘房① 巻きツル除去	・誘引は、ねん枝を行いなからする。 ・新梢間隔を確保するため、1芽座から2本の新梢を出す場合もある。 ・ <b>1新梢あたり1房</b> とする。弱い新梢は空枝にする。 ・収穫後まで巻きツルは除去する。																			
			<b>【展葉9～10枚】</b> 《べと病、黒とう病、晩腐病》	・ <b>ジマンダイセンフロアブル(800倍、開花前)</b>																			
			<b>【開花はじめ】</b> 新梢摘心 花穂整形	・花穂から先の新葉を6枚残して摘心する。 ・花穂の先端を使い3.5～4cmに整形する。 ・花穂整形が早すぎると花穂が長くなりすぎる。																			
下	無核率向上処理	・土が常に湿り気のある状態を保つ ・極端な乾燥は、花ぶるいを助長する ・開花10日前には特に水分が必要 【pF2.2程度】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>肥大促進の重要技術</b> </div> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">主枝片側の目安</th> </tr> <tr> <td>1mあたりの新梢数</td> <td>新梢間隔</td> </tr> <tr> <td>5本</td> <td>20cm</td> </tr> </table>	主枝片側の目安		1mあたりの新梢数	新梢間隔	5本	20cm														
主枝片側の目安																							
1mあたりの新梢数	新梢間隔																						
5本	20cm																						
6	上	満開	<b>【満開～3日後】</b> 1回目ジベレリン処理 (フルメット加用)	・フルメット5ppm 加用 ジベレリン25ppm ・晴天で風の強い時は処理を見合わせ、処理予定日前から園内に散水して湿度を保つ。 ・蕾が全部咲いて花冠が離脱した直後が適期。花冠取り器で花冠を十分落とす。 ・房の状況で複数回に分けて処理を行う。																			
		開花後	《灰色かび病、うどんこ病》 《チャノキイロアザミウマ、コナカイガラムシ類》	・フルピカフロアブル(2,000倍、開花期～幼果期) ・スタークル顆粒水溶剤(2,000倍、前日)																			
	中	結実期	<b>【ジベ処理4日後】</b> 果房整形 予備摘粒	・穂軸長を7cmに調整する。 ・内向き果粒と著しい小粒を取り除く。																			
		幼果期	摘房②	・ <b>目標房数の1.3倍</b> まで摘房をすませる。着粒の確認後、2回目ジベレリン処理までに行う。																			
			<b>【満開10日後】</b> 追肥①	・「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">主枝延長</th> <th colspan="2">1本あたりの施肥量(g)</th> <th rowspan="2">参考 10aあたり窒素量</th> </tr> <tr> <th>琥珀</th> <th></th> </tr> <tr> <td>4m</td> <td>140g</td> <td>0.78kg</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>280g</td> <td>1.57kg</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>350g</td> <td>1.96kg</td> </tr> </table>	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり窒素量	琥珀		4m	140g	0.78kg	8m	280g	1.57kg	10m	350g	1.96kg				
	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり窒素量																			
		琥珀																					
4m	140g	0.78kg																					
8m	280g	1.57kg																					
10m	350g	1.96kg																					
果粒肥大期	<b>【2回目ジベ処理後】</b> 《べと病、晩腐病、灰色かび病、うどんこ病》《アザミウマ類》	・生育期間中で最も水が必要な時期 ・土が常に水分で満たされている状態を保つ ・果粒肥大促進のため十分な灌水を行う 【pF1.5程度】	・ <b>ジベレリン25ppm</b> ※果皮が固くなるので2回目はフルメットを入れない。 ・ジベ焼け防止のため、処理後液をよく弾き落とす。 ・ <b>ストロビードライフロアブル(3,000倍、14日前)</b> ・ <b>サムコルフロアブル10(5,000倍、前日)</b> ※果粒アスキ大期まで																				
下	<b>【2回目ジベ処理後すぐ】</b> 仕上げ摘粒 摘房③	・2回目ジベレリン処理後直ちに開始し、果粒がダイズ大になった頃までに仕上げる。 ・ <b>目標房数に仕上げる。</b> ・やや強めの新梢に着房させる。 ・果粒の肥大状況を見ながら果粒軟化期までに摘房する。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">主枝延長</th> <th colspan="2">1本あたりの施肥量(g)</th> <th rowspan="2">参考 10aあたり窒素量</th> </tr> <tr> <th>琥珀</th> <th></th> </tr> <tr> <td>4m</td> <td>140g</td> <td>0.78kg</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>280g</td> <td>1.57kg</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>350g</td> <td>1.96kg</td> </tr> </table>	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり窒素量	琥珀		4m	140g	0.78kg	8m	280g	1.57kg	10m	350g	1.96kg						
主枝延長	1本あたりの施肥量(g)			参考 10aあたり窒素量																			
	琥珀																						
4m	140g	0.78kg																					
8m	280g	1.57kg																					
10m	350g	1.96kg																					
	《うどんこ病》	・ <b>トリフミン水和剤(3,000倍、7日前)※展着剤フレイクスルー10,000倍添加(濃度注意)</b>																					
	《うどんこ病、灰色かび病》	・ <b>インターフロアブル(8,000倍、30日前)</b> ※袋かけ前の最終防除。																					
7	上	果粒軟化期	袋かけ・ビニール被覆除去	・糖度上昇のため果粒軟化期に袋かけを行う。 ・袋かけが済み次第ビニールを除去する。																			
		《べと病》	・ <b>ランマンフロアブル(2,000倍、14日前)</b> ※果粒の汚れを防止するために袋かけ後に散布する。																				
中・下	<b>【果粒軟化期以降】</b> 臨機追肥	・土が常に湿り気のある状態を保つ ・土壌水分の急激な上下は裂果を招く ・過度な乾燥は、糖度上昇や着色に悪影響 ・ <b>礼肥</b> を効かせるためのかん水【pF2.2程度】	・収穫まで葉色50を維持するために「琥珀」で臨機追肥を行う。																				
8	中・下	収穫期	収穫	・糖度17度以上、シャインマスカット用カラーチャート3～4で収穫する。																			
		貯蔵養分蓄積期	礼肥	・「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">主枝延長</th> <th colspan="2">1本あたりの施肥量(g)</th> <th rowspan="2">参考 10aあたり窒素量</th> </tr> <tr> <th>琥珀</th> <th></th> </tr> <tr> <td>4m</td> <td>140g</td> <td>0.78kg</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>280g</td> <td>1.57kg</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>350g</td> <td>1.96kg</td> </tr> </table>	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり窒素量	琥珀		4m	140g	0.78kg	8m	280g	1.57kg	10m	350g	1.96kg				
主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり窒素量																				
	琥珀																						
4m	140g	0.78kg																					
8m	280g	1.57kg																					
10m	350g	1.96kg																					
9																							
10																							
11	下	落葉期	落葉処理	・落葉は集めて園外に持ち出し処分する。																			
12		休眠期	せん定 越冬病害虫防除	・切り落とした枝の中にはトラカミキリ・スカシバの幼虫が入っていることがあるので処分する。 ・主幹や主枝、結果母枝にトラカミキリ・スカシバが食入していないか点検する。 ・粗皮削りを行い越冬病害虫対策を行う。																			
		土づくり	・堆肥と土づくり資材の施用を右表を参考にを行う。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">主枝延長</th> <th colspan="3">1本あたりの施肥量(g)</th> </tr> <tr> <th>リンスター30</th> <th>苦土消石灰</th> <th>FTE</th> </tr> <tr> <td>4m</td> <td>300g</td> <td>800g</td> <td>40g</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>600g</td> <td>1,600g</td> <td>80g</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>750g</td> <td>2,000g</td> <td>100g</td> </tr> </table>	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)			リンスター30	苦土消石灰	FTE	4m	300g	800g	40g	8m	600g	1,600g	80g	10m	750g	2,000g	100g	
主枝延長	1本あたりの施肥量(g)																						
	リンスター30	苦土消石灰	FTE																				
4m	300g	800g	40g																				
8m	600g	1,600g	80g																				
10m	750g	2,000g	100g																				

摘心管理 マニュアル参照

摘心管理

【満開30日後】  
摘心は控える  
【果粒軟化期】

※農薬使用の際には、ラベルに従って下さい。

※薬剤抵抗性害虫の発生を避けるため、同じ薬剤を続けて散布しないようにしましょう。